

---

# 私はできる女（お題小説文字数制限なしバージョン）

神村律子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

私はできる女（お題小説文字数制限なしバージョン）

### 【Nコード】

N2553BA

### 【作者名】

神村律子

### 【あらすじ】

お題小説です。たまには真面目に書いてみます。

(前書き)

沢木先生のお題に基づくお話です。

「シャワーキャップ」をお借りしました。

私は大手商社のトップ営業。

「女だてらに」

とか、

「鼻につく」

とか言われながらも、居並ぶ男共を尻目に営業成績を伸ばし、何ヶ月も続けて表彰をされている。

それもこれも、大学時代から付き合っていた男と嫌な別れ方をしたから。

それ以来、私は仕事が恋人どころか、命よりも大事なくらいになつていった。

男なんて、みんな同じ。

誰も彼も、やりたいだけ。

冗談じゃない。女は男の欲望の捌け口じゃないんだ。

しかし、仕事一筋になつてからも、

「あいつ、女を捨てたみたいだよ」

と言われたくはなかったので、身嗜みには細心の注意を払った。

皺一つない黒のパンツスーツに、奇麗にアイロンがけされたシルバーホワイトのブラウス。

髪も短くはせず、肩までのセミロングを維持した。

化粧も手を抜いていない。

だから、後輩女子に「好きです」とか手紙をもらっただ。

もちろん、私にはそっちの気は一切ないけど。

ある日、課の企画会議に出席し、プレゼンを行った。

プロジェクターを駆使し、数十枚もの企画書を作り、気合を入れて臨んだ。

「では、続きまして」

企画書の原本のページを捲った時だった。

血の気が引いた。

何故かそこにゴムで丸められたシャワーキャップが挟まっている。

全く身に覚えがない。慌ててポケットに押し込んだ。

私はシャワーキャップなど使った事がないのだ。

しかし、その思いもよらないシャワーキャップの登場で、私はすっかり動揺してしまい、その後のやり取りは惨憺さんたんたるものになってしまった。

ふと出席者を見渡すと、私を見てニヤついている男が一人。

誰あるう、別れた男だった。

まさか？ 思わず睨み付けそうになるが、何も証拠はない。

何ふり構わず突っ走って来た私に対する嫌がらせだろうか？

いずれにせよ、何故笑っていたのかは確認してみよう。

そう思い、企画会議が終わると、昨日までは半径1メートル以内には近づかなかったそいつのそばに歩み寄った。

「どづいつつもり？」

単刀直入に尋ねた。するとそいつは何故か照れ臭そうに笑い、

「そのままだよ。他意はない」

と嘸ふんいた。私は思わずカツとなり、

「企画書にシャワーキャップを挟んでおいて、他意はないってどづいつ意味よー!？」

周囲に人がいるのも忘れて怒鳴ってしまった。

「シャワーキャップ？ 何の事だ？ 俺が挟んだのは、指輪だぞ」

そいつはまだ嘘を塗り重ねるつもりらしく、そう言っただけだ。

「これのどこが指輪なのよ！」

私はポケットから物証を取り出し、そいつに突きつけた。

すると、シャワーキャップの間からコロソと何かが床に転げ落ちた。

「え？」

よく見ると、それはシャワーキャップではなく、包み紙だった。

ゴムで縮んでいると思ったのは、リボンで結わえられていたからだった。

転げ落ちたものを見ると、確かにそいつの言う通りのものだ。

「やり直そう」

そいつは真剣な表情になって言う。

「うん」

涙が零れた。恥ずかしさのため、祝福の声と拍手の音が遠くに聞

こえた。

(後書き)

お読みいただき、ありがとうございます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2553ba/>

---

私はできる女（お題小説文字数制限なしバージョン）

2012年1月6日15時46分発行